

altum. Calyptra elongata, oblonga, ± contorta, pauci-fissa, lutescens, laevis sed apice fusca, et ± scabra, ca 1.5 mm longa.

Hab. Kyusyu: prov. Hyuga, isl. Aosima (S. Hattori, typus in Herb. Hattori Bot. Lab. Nov. 12, 1952).

筆者は「日本の蘚類 Musci Japonici 第2報」に本邦の *Aulacopilum* に就いて書いたが、その後に服部新佐博士が宮崎県青島で採集した一品は從来の *Aulacopilum* 属のものとは違うもので一新種であることを知つた。*A. japonicum* に比較すると、体は小形で葉の先端が透明な短い毛状に尖り、細胞は小さく乳頭の生えている様子も違うものである。

○新變種ミカハシライトサウ (大井次三郎・奥山春季) Jisaburo OHWI and Shunki OKUYAMA: *Chionographis Koidzumiana* var. *mikawana*, a new variety.

昨年三河の鳥居喜一氏より同地の山本隆氏が採集されたシライトサウの一品を送られた。それはチャボシライトサウ型のもので分布上からも面白いが只一本だけなので更に

資料がほしいと要望していた處、今春名古屋の井波一雄氏が現地を訪れて美事な標本と“自生地の広大な村内を広く谷々をも見ましたが不思議な事に村内のどこにもどんな型のシライトサウもありません。僅かにこの自生地一ヶ所のみ數十株割にかたまつて小さな絶壁上に着いているのみで採集は困難な足場です”といふ生育地の状況と花部の写生図をよせられた。

本品は花被片の下部が消失して居る事、薬室が癒着して室となる事で明らかに *C. Koidzumiana* Ohwi チャボシライトサウ型であるが花被片は頗る細長く 15 mm もあり全株大形、花終ればシライトサウと区別困難となる程で、両種の中間に来る形である。生育地はチャボシライトサウに似ている。此處に一新變種と認め次の如く命名する

*Chionographis Koidzumiana* Ohwi var. *mikawana* Ohwi et Okuyama var. nov.

*Omnibus partibus majoribus, foliorum laminis vulgo 4-7 cm. longis 2-3 cm latis, scapo usque ad 40 cm alto plurisquamato, spica erecta 5-14 cm longa laxiuscule multiflora, segmentis perianthii 13-15 mm longis viridulo-albescensibus filiformibus. Hab. Hondo: Tomiyamamura in Mikawa (leg. Kazuo Inami, Mai. 31, 1953. NSM. No. 98861—typus: Takashi Yamamoto, Jun. 2, 1952. NSM. No. 90332).*

